

「人間の尊厳、平和、サステイナビリティ」

ユネスココチエア採択記念シンポジウム

本学はユネスココチエア採択され、学長とユネスコ事務局長間で覚書が締結された(採択名: UNESCO Chair on Education for Human Dignity, Peace and Sustainability)。コチエアは、教育・研究機関が率いるチームがユネスコと連携して、複

2月28日、この採択を記念するシンポジウム「人間の尊厳、平和、サステイナビリティ」が2号館17階国際会議場で開催された。ユネスココチエア採択にあたって推薦を受けた8つのパートナー機関とともに、教育の革新とコチエアの役割について考えることが目的。

岡田隆学術研究担当副学長の開会挨拶に続いて、文部科学省国際戦略企画官の本村宏明氏、ブルキナファソのアブゼ・

「教育を通して持続可能な開発を促進するために必要な知識や技能の習得を目指す」と、GCCED(Global Citizenship Education) および AISD (Education for Sustainable Development) を紹介しつつ、ユネスココチエアの潜在的な役割を解説した。

次に、チェアホルダー(責任者)である総合人間科学部教育学科の杉村美紀教授が登場。本学のユネスココチエアについて、発足した背景、チェアの目的、パートナーシップの構築計画などを紹介した。その中で、「国際的な教育・研究を通じて知を創造・共有



ユネスココチエアの役割を解説するカーン氏

ユネスコ・バンコク事務所プログラム・スペシャリストのファリアル・カーン氏が登壇し、「未来を形作る: 人間の尊厳、平和、サステイナビリティのための変革教育」と題して基調講演を行った。

カーン氏は、SDGsゴール4のターゲット7「パートナーシップ」について、発足した背景、チェアの目的、パートナーシップの構築計画などを紹介した。その中で、「国際的な教育・研究を通じて知を創造・共有



ユネスココチエアの役割を解説するカーン氏



「教育を通して持続可能な開発を促進するために必要な知識や技能の習得を目指す」と、GCCED(Global Citizenship Education) および AISD (Education for Sustainable Development) を紹介しつつ、ユネスココチエアの潜在的な役割を解説した。

2023年度金・ルビー・銀・銅祝式典 卒業後の節目を祝う

2月24日、四谷キャンパスで、金・ルビー・銀・銅祝式典が挙行された。この式典は、卒業後50年(金祝)、40年(ルビー祝)、25年(銀祝)、15年(銅祝)の卒業生を招待して祝う大学主催の行事。コロナの感染症法上の位置づけが5類へ変更されたこともあり、式典の対面開催に加え祝賀会も立食形式とするなど、コロナ前の形式への完全復活が実現した。

今年度は、金祝(1973年卒) 275人、ルビー祝(83年卒) 304人、銀祝(98年卒) 211人、銅祝(2008年卒) 159人、合わせて949人と、昨年度に迫る数の卒業生が四谷キャンパスに集まった。式典には、陣道佳明学長、サリ・アガスティン理事長および鳥居正男ソフィア会会長が登場し、全員で校歌を斉唱し始めた。陣道学長は式辞で、卒業生が長年にわたり物心両面で支えてくれたことに感謝を述べた上で、大学の近況を報告した。

「本学は都心にあることも含めグローバル教育の叫びの意味であること、研究環境にあり、また国際社会へ貢献する卒業生に敬意を表した。また鳥居ソフィア会会長と呼びかけ、家族もソフ



式辞を述べる陣道佳明学長



金祝代表の辰巳貞一さん



ルビー祝代表の野田聖子さん

「教育を通して持続可能な開発を促進するために必要な知識や技能の習得を目指す」と、GCCED(Global Citizenship Education) および AISD (Education for Sustainable Development) を紹介しつつ、ユネスココチエアの潜在的な役割を解説した。

米州開発銀行総裁が来校

講演やランチセッションで本学学生と対話



ゴールドファイン総裁と陣道学長



学生とのランチセッション

1月22日、米州開発銀行(IDB)のイラン・ゴールドファイン総裁が来校した。同銀行は中南米・カリブ地域の経済・社会発展に貢献することを目指し、1959年に設立された国際開発金融機関で、日本は米州以外からの初めての加盟国の一つとして1976年に加盟している。本学は2016年にIDBと「協力に関する覚書」を締結し、シンポジウムやセミナーの開催、IDBアジア事務所での特典ツアーシップの実施などで協力を深めてきた。今回関係者を深めてきた。今回関係者を深めてきた。今回関係者を深めてきた。

講演後は、学生とのランチセッションが実施された。9人が「教育の変革とユネスココチエアの役割」をテーマにパネルディスカッションを実施。活発な議論が展開された後、ホピキンス教授およびカーン氏による総括でシンポジウムを締めくくった。

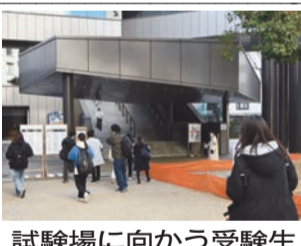
また、ゴールドファイン総裁による「IDBと日本: 地理的距離を超えた親密なパートナーシップ」と題した講演が行われ、国際協力や国際機関を越える参加者が聴講し、講演後の質疑応答でDB本部が置かれている状況について対話が進んだ。

本が贈呈した校の話題は、話題は多岐にわたった。学生たちは、イノベーションを超えた知識が必要であることを実感し、総裁との一連の交流によって教鞭を取った。

「本学は都心にあることも含めグローバル教育の叫びの意味であること、研究環境にあり、また国際社会へ貢献する卒業生に敬意を表した。また鳥居ソフィア会会長と呼びかけ、家族もソフ

2024年度一般選抜入試

志願者数は昨年度より3017人増加



試験場に向かう受験生

2024年度学部一般選抜入試が、2月6日から11日にかけて行われた。共通テスト併用方式(神・心理・看護学科は19日に2次試験を実施)。「TEAPスコア利用方式」「学部学科試験・共通テスト併用方式」「共通テスト利用方式」の6日に実施した「TEAPスコア利用方式」は、3教科型は募集人員66人に対し、志願者数は7290人。4教科型は募集人員87人に対し、志願者数は4921人であった。全方式の志願者数は2万9569人となり、昨年度より3017人の増加となった。

最終合格者数(補欠入学者を含む)は、全学部合計6364人で、補欠者には補欠順位を付けて通知された。なお、補欠入学者数は、2025年度の「入学試験資料」(5月発行予定)や本学ウェブサイトなどで公開する予定。

「国際政治経済論」共著(有斐閣)、『太平洋国家オーストラリア』共著(東京大学出版会)

濱田壽一名誉教授逝去
2月15日、間質性肺炎のため死去した。1947年生まれ。76歳。

著書に、『電子計算機のプログラミングIBM 1130(全2巻)』共著(培風館)

ロバート・データーズ名誉教授逝去
2月4日、誤嚥性肺炎のため死去した。1924年生まれ。67歳。

1924年生まれ。67歳。年東京大学大学院博士課程修了。53年本学理工学部電気・電子工学科講師、68年同助教授、71年同教授、90年同特任教授。95年から本学名誉教授。70年4月〜75年7月電子計算機室長、84年4月〜86年3月電気・電子工学科長、84年10月〜86年3月大学評議会議員、86年4月〜90年3月理工学部長を務めた。